

アジア原子力協力フォーラム(FNCA)第13回大臣級会合
白副大臣 会合共同議長挨拶 (平成24年11月24日)

(冒頭:歓迎の辞)

御列席の大臣閣下、各国代表、そして全てのご出席の皆様、アジア原子力協力フォーラム(FNCA)第13回大臣級会合の開催に当たり、日本政府を代表し、一言ご挨拶申し上げます。

まずは、アジア各地から FNCA 第13回大臣級会合にご出席いただき感謝申し上げます。また、インドネシア政府には、今回の会合を我が国と共催され、ホスト国として心の行き届いた準備と昨夕のレセプションをはじめ心温まる歓迎をいただき、誠にありがたく、厚くお礼申し上げます。

(原子力を取り巻く環境)

昨年3月11日に東京電力福島第一原発の事故を経験した我が国は、国民的議論を実施し、今後のエネルギー政策を白紙から見直してまいりました。

その結果、今年9月、「エネルギー・環境会議」において国際的なエネルギー情勢などの将来展望を慎重に見極めながら不断に検証、見直しを行いつつ、2030年代に原発に依存しない社会を目指し、あらゆる政策資源を投入して、グリーンエネルギーへのシフトと経済成長の確保を両立させることを基本方針とするエネルギー戦略を決定しました。その過程において安全性が確認された原発は、重要電源として活用することとしています。

経済発展著しいアジア地域においても、原子力発電は、温暖化対策やエネルギー保障の観点から重要なエネルギー源であり、活用の増大を目指す国やこれからこれを導入することを計画している国が少なくありません。

我が国は引き続き、国際社会との関係にも十分に配慮しながら、原子力の平和的利用の担保と安全性の確保に取り組んでまいります。昨年原発事故の経験と教訓を世界に共有することにより、世界の原子力安全の向上に貢献していくことは我が国の果たすべき責務であり、諸外国が我が国の原子力技術を活用したいと希望する場合には、相手国の事情や意向を踏まえつつ、世界最高水準の安全性を有する技術を提供していきます。

（FNCA の取組）

私は、FNCA が大臣級会合のリーダーシップのもと、過去10年以上にわたり、放射線のユニークな特性を生かして、農業分野や医療分野における課題の解決に取り組み、また放射線安全、研究用原子炉、人材育成など幅広い分野において、参加各国が共同して多くのプロジェクト活動を企画・推進し、それぞれが着実な成果を生み出してきたことを高く評価します。

一方、原子力発電に関しては、FNCA 各国がパネル会合を通じて、各国に共通する課題である市民との相互理解や人材育成の在り方などについて経験交流や情報共有を行い、また、安全確保の在り方を検討する際に重要な地震や津波等の自然災害の知見、そして先の福島第一原発事故の教訓を共有してきたことを評価します。福島事故から学んだ教訓を関係各国の皆様と共有し、アジア地域における安全強化を図ることは、極めて重要な取組であり、当事者として我が国は最大限の貢献をなすべきだと考えます。

FNCA は、原子力利用に関わる中長期にわたって取り組むべき課題に対して、アジア地域各国が協力し、その解決を図るための重要な仕組みであると考えています。そこで、今回は、FNCA が相互裨益の観点から今後、どのような協力体制で、どのようなテーマを取り扱うことが参加国の皆様の期待するところであるか、ご意見を伺うことを楽しみにしています。

（結語）

日本は、今後ともアジア諸国が原子力科学技術の研究、開発及び利用を通じて発展を追求していくことに協力していきたいと考えています。各国の社会経済的発展と国民の福祉に寄与する原子力分野の活動が FNCA の取組により、一層効果的なものとなることを期待して私の開会挨拶と致します。

御清聴ありがとうございました。

（了）